

福岡県公立高校入試問題分析とアドバイス

総論（2023年3月7日実施）

特に国語が難化、数学も傾向に変化が見られ、後半に難易度の高い問題が増えた。社会と理科は比較的解きやすい問題が並んだが、記述形式が答えにくいものも多く、昨年並みと予想。英語も昨年並み。5科トータルの全体平均点はやや下がる見込み。また、新課程内容に関しては、数学の箱ひげ図（2年連続）や理科のイオン化傾向、英語の仮定法などが出題されている。いずれの教科も丸暗記で答えが出るような簡単な問題は少なく、やはり、知識を組み合わせる思考力を試す問題、正確に読み取り、条件に合わせて過不足なく表現する、そういった総合的な学力が試されている。時間内に読み解くスピードを鍛えていく必要がある。

各教科分析

	2023年3月 福岡県公立入試問題分析	次年度以降の対策
国語	<p>昨年とほぼ同じ大問構成だった。語彙や漢字に関する設問は大問2から大問1へ移動。昨年同様、記述問題は30字程度だが、書きにくいものも多く、昨年よりも難化。問題量は例年と大きく差異はないが、試験時間が50分であることを考慮すると、情報を素早く処理していくスピードが求められる。</p> <p>大問1（説明的文章）</p> <p>（1）効率化により時間を節約し、経済優先となった社会に警鐘を鳴らし、信頼に基づく社会を作るために時間を費やすことの重要性を説いた文章。問一ではことわざを答える問題が出題されたが、聞きなじみのあるものであり難しくない。問三・問五の記述問題は答えを探す場所はわかりやすいが、該当部分を要約する力が問われた。問四の野生のゴリラの例が文章の中でどのような役割を果たしているか問われた問題は、前後の筆者の主張を読み取り、選択肢の中から不適切な表現のものを排除できたかがカギとなる。</p> <p>（2）は（1）で登場したミヒヤエル・エンデ作「モモ」の一節から出題。前年度まではポップ等の資料から読み取る問題だったが今年度はある程度の分量が出された。しかし、内容に関係するのは問一だけなので、落ち着いて設問を見ることができたかどうか。問一は「具体的」の意味が理解できていれば簡単だが、そうでない場合は判断に時間がとられた</p>	<p>H30年度以降、語彙・知識問題の比重が高くなっており、大問1つ分として独立した問題でした。また、抜き出し問題は少なく、自分で考えて記述する問題が多いので、制限時間を考えると難化していると言えるでしょう。以下、来年度受験生へのアドバイスです。</p> <p>①最近の国語の入試問題は分量が多くとにかくスピードが要求されます。自分のペースで読んでいると、最後まで解き終わらなかったということもよくあります。正確さや丁寧さと、読む速さ・解く速さを両立しなければなりません。</p> <p>②国語は語彙力です。文章を読むとき自らの語彙の中でしか理解できません。画像の解像度が低いと細かいニュアンスが分からないように、語彙を豊かにし言葉の意味を細かくとらえられるようにすれば、文章の理解度は上がっていきます。知らない言葉に出会ったときは、その都度意味を調べて、語彙力を向上させましょう。近年の入試問題では、語彙・知識問題が大問1つ分出題されています。漢字はもちろんのこと、類義語・対義語などの熟語、慣用句やことわざ、故事成語など、日頃から身につけていくことが大切です。</p> <p>③文法は、文節と単語に始まり、文節相互の関係、品詞それぞれの働きや用法、その識別も含めて学ばなければならないものも多く、入試にもよく出</p>

ことだろう。問二は「文の働き」と「文節相互の関係」を区別できていれば正解できる。問三は熟語の構成、問四は同音異字ともに容易。問五は書体に関する問題。選択肢の五つのうち三つが正解。特に、「4 漢字の行書に調和する書き方で仮名を書くこと」がわかりづらく、また正解数がわからないため正答率は低いだろう。

大問2 (文学的文章; 小説)

仏像修復師が主人公の小説。常に主人公視点で物語が進み、仏像と向き合う主人公の心情を読み取っていく。問一から問三は解きやすいが、問四、問五は主人公の行動から心情を読み取る問題が難しい。自己と他者の評価の差に悩み、絶望の中で仏像修復師にひかれていった主人公の心情を読み取る必要がある。短時間で正解を導き出すのは難しい。

大問3 (古典)

漢文の書き下し文とその現代語訳から出題。問一は現代仮名遣いに直す問題。問二・問三は古文と現代語訳を照らし合わせて読めば解くことができる。問四は返り点をつける問題。こちらは「レ点」と「一・二点」を複数箇所書く必要があり、やや難しかった。問五の(1)は現代語訳を中心に読み取れば正解できる。(2)は二つの話の言いたいことを抽象化して書く必要がある。理解は難しくないが、記述を考える時間が残されていたかどうか。

大問4 (条件作文)

言葉や言葉の使い方について考えを述べる作文。第二段落で自分の知識や経験と結び付けて書くことが最大のポイント。そこを考えることができれば、逆算で第一段落も書けるだろう。

題されるため、対策が必須です。まずは10個の品詞を正しく見分けられるようになることから。文法は繰り返し問題を解いて理解することで身につきます。苦手のままにしないようにしましょう。

④古典(古文・漢文)について。受験勉強のスタートとして、短くておもしろみのある文章を選び、まずは音読から始めましょう。おおまかな意味を捉えることができれば十分です。

⑤作文の対策は、普段から「書き言葉」を意識して使ってください。話し言葉や「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」など、作文に適切でない言葉もあります。そして、試験の場合は「条件」が設定されていますから、その範囲の中で、自分の主張を書くように心がけましょう。入試の作文は、条件を守っていないと大きく減点されてしまいます。また、近年は読み取る資料も多いので、素早く情報を処理しなければなりません。

受験勉強において、他の教科に比べて国語は最も勉強時間が少なくなりがちです。しかし、どの教科においても国語の力は必要とされます。素早く読んで理解し、素早く過不足なく書くことができれば、それは数学・社会・理科・英語にも活用できます。国語を勉強することは読む能力・書く能力を養うことにつながります。

現中2・中1生も、一度、今年の入試問題に挑戦してみることをオススメします。学校の定期テストとは異なり、初見の文章を大問1題につき約10分で乗り切っていかなければなりません。それも国語は入試において最も緊張する最初の教科になりますから、実は思った以上に大変です。勉強が後回しになりがちな国語だからこそ、日頃からその力を磨いていきましょう。

<p>数学</p>	<p>大問数は6題で構成も例年通り。削除単元はなく、データの活用が大問2から大問3へ移動。大問3は3年ぶりに方程式の利用が出題。</p> <p>大問1 計算・小問集合 計算から関数のグラフ、標本調査、角度の問題などが9問。(9)の角度の問題は平行線や円周角に着目しないと解けないやや難しめの問題だったが、それ以外は確実に正解したいところ。グラフをかく問題は5年連続の出題。</p> <p>大問2 方程式の利用 (1) あめの定価を文字式であらわす問題。いきなり解答を書こうとするのではなく、定価$\times 0.8 = a$という式から定価を考えていくと答えに辿りつきやすい。 (2) 生徒の人数をx人として1次方程式をたてて解いていく。易しめ。問題文を正確に読み取り、必要な内容を漏れなく書くことができれば正解できたはず。</p> <p>大問3 データの活用 新課程内容になる「箱ひげ図」を使ったデータの読み取りの問題。2年連続の出題。(1)こそ易しめだが、(2)(3)は用語の意味を理解し、箱ひげ図とヒストグラムのデータを確実に読み取ることができかを求められた問題で、最後まで悩んだ受験生も多かったのではないかな。</p> <p>大問4 関数の利用 毎年出題される関数の利用問題だが、今年は2乗に比例する関数と比例・1次関数の融合問題であった。H28の問題と酷似している。グラフの式をたてるだけでなく、そこから必要な座標を求めていく計算力も求められる。昨年よりも難しい。</p> <p>大問5 平面図形 この大問のページを開いたときに、正方形が登場していることに驚いた生徒も多かったはず。(1)(2)は三角形の合同に関する内容。易しめ。(3)は三角形の相似の証明。前半部分で証明された合同な三角形を使って1組の角が等しいことにつなげていく部分が難しい。(4)は面積比の問題。例年よりは易しめだが、それでも難易度は高い。</p> <p>大問6 空間図形</p>	<p>中学3年間のほぼすべての単元から出題されています。問題レベルも基礎から応用まで幅広く、特に関数の利用や図形問題では、表面的な知識だけでなく、本当に理解できているのかを試す問題ばかりです。まずは学校での定期テストのときから確実に基礎基本を定着させておくことがポイント。苦手な単元は早めに取り掛かり、わからないことをそのままにしないようにしていきましょう。また入試問題は、文章そのものが長く情報量も多いため、できるだけ短時間で意味を正確に読み取る訓練が必要です。キーワード・数値・間かかれている内容に線を引き、一つひとつチェックしながら解き進める習慣をつけていきましょう。</p> <p>・記述式問題への対策 数年前まで、大問2から大問5での説明・証明といった全記述形式の問題が多かったのですが、昨年から減少傾向にあります。対して、途中式や数値だけを記入する、いわゆる部分記述の割合が多くなってきています。やはり練習量と正しく理解しているかがポイントになってきますので、『全記述で解答できる』ように備えておいたほうがよいでしょう。</p> <p>・データ系の問題 ここ数年の傾向として「ヒストグラム」や「箱ひげ図」を利用したデータの比較や読み取りの問題が必須となってきました。グラフの特徴や語句の意味を正しく理解したうえで、データを説明したり作成したりする問題にも慣れておきたいです。</p> <p>・考える訓練 思考力を問う問題も増えています。解答までの道筋を自分で組み立てていく力が求められます。そのためにも日頃から、解き方を覚えるのではなく、なぜそうなるのか？を念頭に置いて、授業を受けたり問題を解いたりしていくようにしましょう。大事なことは作業にならないことです。</p> <p>中1・中2生へのアドバイス ①計算力を意識する。素早く、正確に解くためにも計算脳を鍛えていきましょう。 ②公式や用語の意味を正しく理解しておきましょ</p>
-----------	--	--

立体は円すい。毎年出題される辺や面の位置関係を問う問題は出題されず、(1)は表面積、(2)は体積を求めてから円柱の高さにつなげていく問題。いずれも公式の意味を理解しておけば確実に正解できる。そして(3)は指定された辺の長さを、相似や三平方を利用して解く問題となっており、昨年よりも難易度が高い。

昨年の平均は32点だったが、今年は難化している箇所もあることから、平均点は若干下がる予想。30点前後くらいか。

う。自分オリジナルの公式集・用語集を作ってみるのもいいかもしれません。

③苦手な単元に対して早めに集中的に取り組みましょう。わからない箇所を後回しにしない。

④問題文を早く正確に読み取る訓練が必要。与えられた条件や数値、大事な箇所に線を引き、グラフや図形に情報を正確に記入するようにしてみてください。

⑤教科書の各単元の最後にある『活用』問題にも挑戦してみてください。特に上位校を目指す生徒は応用力強化にもつながります。思考力を問う問題も近年出題されているので時間をかけて是非チャレンジしてみましょう。

<p>社会</p>	<p>歴史、地理、公民とバランスよく出題、練られた良問が多く、一問一答形式のような単純な問題は極めて少なくなった。大問1と2が歴史（20点）、3と4が地理（20点）、5と6が公民（20点）であった。</p> <p>大問構成や配点等に変化はないが、歴史分野に傾向の変化が見られる。政治史よりも社会経済史に関する出題が多く、また、記述形式で答える問題がいずれも難化している。逆に、今年は地理と公民がやや易化しており、トータルでは昨年並みの平均点に落ち着くか少し上がる見込み。「時間が足りなかった」ということもなさそうだ。</p> <p>従来、社会科は事前の準備（暗記）による知識量がモノをいう教科だったが、思考力記述力重視の流れは続いている。時事的な要素も含めて、いわゆる教養に近い学習素地が求められている。</p> <p>塾生は高得点が期待できる。入試直前の数週間で取り上げてきた類題が多数出題された。</p> <p>大問1 歴史 略年表とカードを使った定番のパターン。記号選択の問題は平易だが、記述形式が2題ともに難しく、指定語句をヒントにうまくまとめられたかどうかのポイント。</p> <p>大問2 歴史 世界遺産を題材にした近現代の歴史。</p> <p>大問3 世界地理 地理の総合力を試すオーソドックスな出題が多い。問3と問4がやや難。</p> <p>大問4 日本地理 問4（愛知県の農業）がやや難しいか。全体的に平易。</p> <p>大問5 公民 全範囲から出題。問3の衆議院の優越に関する出題がやや難。裁判員制度や京都議定書、税金、社会保障制度など。</p> <p>大問6 公民 地方創生がテーマ。資料を読み取り、関連付けて記述する問題。</p>	<p>社会科は数年前と比べて解きやすい問題が増え、平均点は高めです。ただ、誤解のないようにしてほしいのは、ベースとなる基本知識が整ってこそ、入試問題が「解ける」のであって、それがあやふやでは答えにたどり着けません。教科書内容を確実に理解し、定着していればそれで十分なのですが、定期テストと入試とでは範囲も全く異なりますし、一問一答ではなく、1問を解くために自分の持っている知識や経験を総動員する、それぐらいの感覚が必要です。</p> <p>地理・歴史・公民、配点は20点ずつ均等ですが、ここ数年、入試直後に感想を聞くと、「公民が難しかった」という受験生の声が多いです。これは中3の6月頃まで中学校で歴史を勉強しており、公民の教科書に入るのが遅くなっている進度的な要因が挙げられます。夏以降の受験勉強期間と重なるため、公民は勉強量が不足しがちです。私たちの生活と直結する内容や時事的なテーマも多いので、日頃から世の中の動向に興味をもつよう心がけましょう。</p> <p>もう一言、アドバイス。一問一答で意味も理解せず丸暗記したとしても、時間が経てば忘れてしまいます。知識をつなげていくこと、例えば歴史であれば、原因と結果をセットで覚えたり、歴史上の人物の家系図を調べたり、画像で見たりすることで知識が立体的になります。ヒントは授業中の先生の話にあります。よく話を聞き、そして想像してください。</p> <p>◆歴史 まずは「用語（教科書の太文字）」を正確に理解すること。次に自分できちんと説明できるようにすること。自学ノートを活用しましょう。</p> <p>◆地理 資料やグラフに慣れ、分析する目を持つことを心がけましょう。また、教科書だけでなくテレビ等で視覚的に知り得る情報も役立ちます。</p> <p>◆公民 世相を反映した出題が増えてますので、ニュースを見たり、新聞を読んだりして、自分なりの意見を持てるようになりましょう。選挙権だけでなく、成人年齢も18歳に引き下げられました。大人になる準備として公民の学習は大切です。知れば知るほど面白い世界です。</p>
-----------	--	--

<p>理科</p>	<p>生物分野、化学分野、地学分野、物理分野から大問2題ずつの、合計8問の構成は例年と変わりなし。1年生内容が2題、2年生内容が3題、3年生内容が3題とバランスよく出題された。記述式の問題も例年通り出題されたが、やや短めかつ頻出の問題。全体的に基本的な内容を問う問題が多く易しい印象ではあるが、イオンや電流など苦手とする受験生が多い分野からの出題があり、平均点は昨年並みと思われる。</p> <p>大問1 (生物分野) 植物のつくりとはたらきに関する問題 問4の根毛の役割に関する記述は基本的な内容で易しい。</p> <p>大問2 (生物分野) 生殖と遺伝に関する問題 問2の「発生」は誤答しやすい語句であるものの、直前の予想模試で出題された内容であったので塾生はうまく答えられたであろう。</p> <p>大問3 (化学分野) 物質の密度に関する問題 問2は密度を求める計算問題であったが、他の金属の密度の計算結果が表に示されているため易しい。問4の記述問題は指定語句に気をつけながら丁寧に答えることが大事。</p> <p>大問4 (化学分野) イオンへのなりやすさに関する問題 新課程のイオン化傾向を問う問題であった。問1のマイクロスケール実験の良い点を答える問題は教科書をよく読んでいれば難なく答えられる。問4の金属の名称をイオンになりやすい順に答える問題は間違えないよう正確に答えたい。</p> <p>大問5 (地学分野) 火成岩に関する問題 語句、記述ともに基本的な内容。問2(2)は鉱物の形状まで問われているのでやや難。(3)は無色鉱物についてではなく有色鉱物の割合について述べる必要がある。</p> <p>大問6 (地学分野) 日本の天気に関する問題 日本付近の気団や前線に関する問題であったが、あまり深い内容を問うものではなく易しい。問1の天気図記号を書く問題では解答欄の方角が16方位であることと、風力が1であることに注意。</p> <p>大問7 (物理分野) 電熱線の発熱量に関する問題</p>	<p>理科は全学年の全分野から幅広く出題されます。計算問題の出題が増えてきているのも特徴です。記述式の問題や作図問題も出題されます。丁寧さ・正確さ・表現力を磨くことが大切です。苦手分野を先延ばしにせず、すぐに克服する姿勢が大切です。特に筑紫丘・明善等の公立TOP校を受験する生徒には高得点が必要とされます。</p> <p>☆公立高校入試合格のための理科の勉強法</p> <p>①実験の意味、内容について深く理解すること 実験についての出題が大半を占めます。実験器具の使い方や実験における注意事項等についてノートにまとめていくと良いでしょう。</p> <p>②計算力を磨こう すべての分野で計算問題が出題されます。練習問題を繰り返し解くことでチカラがついてきます。特に理科の計算では単位についてよく理解していることが大切です。また、ミスを防ぐために数字に対する感覚を磨いていくことを意識しましょう。</p> <p>③表現力を身につけよう 記述式の問題が多く出題されます。適切な語句を用いて表現することは入試直前で身につくことではありません。日頃から自分の言葉で説明できるように、また書けるように練習しましょう。</p> <p>④教科書を何度も読もう 公立高校入試は教科書の内容から出題されます。教科書を何度も読むことで理解を深めましょう。</p>
-----------	---	--

問1は指定語句が「熱量」なので少し書きにくい
理由がきちんと理解できていれば解ける。問3の
グラフを書く問題では間違いやすいポイントに注
意して、丁寧に書くことが必要。

大問8 (物理分野) 物体の運動に関する問題

やや難。教科書レベルの内容を深く理解しているか
が問われる問題が多かった。問2は2人の生徒の意
見のうち、どちらの意見が正しいかを確かめるた
め、実験結果を考察することによって答えるとい
う問題で、初めての形式であった。問3の記述も上
位層以外の生徒にとっては難しい。

<p>英語</p>	<p>英単語も文法内容も、本格的に新教科書の内容が出題され始めた印象。長文問題の1つが難しめの英単語や仮定法を使った英問英答を含み正答率が低くなりそうだが、30語以上で書く自由英作文が昨年までと比べて書き易いものだったことで、全体的な平均点は昨年並みになると考えられる。</p> <p>リスニング</p> <p>形式、難易度とも昨年並み。受験生によると、読まれる文と文の間隔が短く、次から次へと読まれていく感じだとのこと。聞いた瞬間に理解していける英語力が求められている。</p> <p>1 (対話文選択)</p> <p>対話文の空所補充問題で形式は例年通り。対話や選択肢中に help+人+動詞「人が～するのを手伝う」や現在完了進行形など新教科書内容が含まれているが難易度は例年並み。ただ、ここは正答率が高いので、会話のシチュエーションや文脈をきちんと捉え確実に得点しないとイケない。</p> <p>2 (対話文読解)</p> <p>形式、難易度とも昨年並み。語句整序問題は①が間接疑問文の表現。「これまで人々が どんなイベント に参加してきたか」と what events people have joined (疑問詞+名詞+主語・動詞～) という疑問詞と名詞の形を使う形はできない生徒が多いので、正答率は低そうだ。②は新教科書内容の let+人+動詞原形「人に～させる」という使役表現だが、こちらの方が文は作りやすく正解した受験生が多いだろう。</p> <p>問2、問3の空所補充問題や問4の英語の質問に対する正しい答えを選ぶ問題は、選択肢の英文が相変わらず長いが、難しくはない。本文中には take part in (参加する)、several (いくつかの)、local (地域の) などやや難しい単語が含まれていたとはいえ、比較的解きやすいものだった。</p> <p>3 (エッセイ文読解)</p> <p>形式は例年通りだが experience (経験)、graduation (卒業)、education (教育) など、本文中に難し</p>	<p>①英単語</p> <p>学校の教科書に出てくる英単語は確実に意味を覚え、できれば書けること、そして英文の中で正しく使えるようにしていくことです。英単語テストがある時だけ覚えるのでは必要な語彙力を身につけることはできません。国語の漢字や語句と同様に、知らないものが出てきたら自分で確認する習慣をつけましょう。</p> <p>まずは何となく意味のわかる英単語の量を増やしていくことからです。英文を読んでいく時には、全ての英単語の意味がわからなくても、大きな流れを捉えていくことを優先することも大切です。しかし、いい加減な覚え方ばかりしてはダメで、新しく出会った英単語は、発音・アクセント、品詞(名詞・動詞・形容詞など)、意味、使い方(実際に英文の中でどう使うか)など、意味以外のこともチェックする習慣をつけましょう。今年のリスニングでも、forest、each activity、east Australiaなどは聞いた瞬間に認識できるレベルにしていないと対応できません。英作文でも意味だけしか知らないと正しく書けません。例えば go は〈go to + 場所〉の形で使うけれど visit は〈visit + 場所〉の形になるなど。英単語の力は(1)確実に使いこなせるものと(2)何となく意味がわかるものとの成り立っていて、(1)も(2)も両方とも増やしていく努力を続けることです。覚える時も、見る・聞く・声に出す・書く、と五感をフル活用しましょう。</p> <p>②英文法・英作文</p> <p>英会話などが瞬間的なものだからルールとか考えるより感覚だと言っても、中学の英文法は基礎の基礎です。「何となく」をできるだけ減らし、立ち止まって正しく理解し、ルールに基づいて英文を読んだり書いたりする姿勢を持ちましょう。自学の時に、その確認を丁寧に行うようにしておけば、テストの時や実際に英語で話す時にも瞬間的に正しい文が作れるようになります。</p> <p>③英文読解</p> <p>まずは教科書の英文を徹底しましょう。</p> <p>(1)音読:教科書の英文はQRコードで音声を開けるので、聞きながら読む。音声に少し遅れて音</p>
-----------	---	--

い英単語が多く、文を読み通すのに苦労した受験生が多かった。問1の英問英答(本文の内容について)と問2の難語の意味の類推(選択肢)はそれほど難しくなく例年並み。問3の指示語 that の指す内容を日本語で記述するものは、答えとなる文中の improve (上達させる) や through~ (~を通して) の意味が書けたかどうか明暗を分けた。improve はたとえ意味を知らなくても、文脈から「向上させる、うまくする、進歩させる、よくする」的なことは書きたいところ。問5の英問英答(自由に考えて答える)は What would you teach children if you were a teacher? (もしもあなたが先生だとしたら、子供たちに何を教えるか?) と仮定法を用いた疑問文に対する答えを求められ、きちんと仮定法で I would teach them how to study English. などと答える必要がある。昨年は選択肢の中に含まれる程度だった仮定法が本格的に問題として出題された。このように、英単語や英文法が全体的に難しめであることに加え、例年通りの難易度の大問2に比べ急にレベルが上がることで慌てた受験生も多く、そういったことも加わり昨年より正答率が低そうだ。

4 (自由英作文)

30語以上の英語で書く自由英作文。ホームステイ先で、a supermarket, an art museum, the sea のどこに行きたいかを理由とともに書く。過去3年出題の、2つから1つ選んでもう一方についても触れるものから形式が変わり、かなり書き易くなった。3の長文問題が難しめなので全体の平均点を昨年並みに保つために自由英作文は易しめにしたというところか。

読する(シャドーイング)。

(2)和訳:英語から日本語に直せるようにする。最初は和訳を書き、誰かに正しいか確認してもらう。その後は英文を読みながら、頭の中で正しく意味を言えるか確認する。

(3)英訳:英文の和訳から逆に英文を書いてみる。間違えた部分やわからなかった部分を復習し、覚えたり理解したりする。全部の文をするのは大変なので、自分のレベルによって調節しましょう。

(4)その後は間をおいて時々(1)~(3)を行い、定着させる。

また、英語の問題集などを使って、初めて見る英文を読んだり問題を解いたりする練習も行っていくと、さらに読解力を鍛えられます。その場合も1度だけで終わりにせず、答え合わせや和訳の確認をした後で、何度も読み返すようにしましょう。塾のテキストには長文問題にもQRコードが付いているので、長文を読む練習だけでなく、音声も聞いてリスニング練習に活用してください。

④リスニング

リスニングを他の勉強と分けて考えずに、英単語や英文法、そして英文読解の勉強をする時にも、上記のように聞き取りや音読を組み合わせることで勉強していくことで英語を聞き取る力もついていきます。入試直前になって慌てても間に合いません。教科書のQRコードやアプリ、動画サイトなどを活用しましょう。洋画や洋楽もいいですが、必ず音声のスクリプト(本文の原稿)があるものを使わないと効果はありません。音声と実際のスクリプトを照らし合わせて、自分の思っていた音と違う部分を修正し、シャドウイングなどで自分でも発音できるようにしていくことで聞き取る力もつくのです。

⑤最後に

現在の教科書では中1の段階で、すでに小学校である程度の英単語と英語表現を習得していることを前提に内容が構成されています。教科書を見て、そうした既習内容に自分が知らないものが出てきた場合は、必ず確認したり覚えたりするように努めましょう。それに加えて中学での新出内容も出てきた時に覚え、繰り返し練習して、いつでも瞬

間的に意味がわかったり、言いたいことを英語で表現できたりすることを目指していくことが必要です。語学はスポーツや楽器の習得と同様に、単純な基礎練習の継続（英単語の暗記、基本例文の暗唱、英文の聞き取りの習慣など）が最も重要です。やったりやらなかったりするのではなく、短い時間でも触れる機会をできるだけ増やしましょう。

現在の学校教科書で使われている英単語や表現は、中3が英検準2級程度のレベルとなっており、英文の分量も増え、以前より実用的な英語で構成されていますので、英検に挑戦して総合的な力を磨くのもいいでしょう。また、生きた英語に触れるなら、ちくしんのRevo-Englishが最適です。読む・書く英語と、話す・聞く英語の相互作用や、ネイティブ相手に実際に使いながら学ぶことで強く印象に残ります。最近はスマホのアプリや中学生用の無料動画なども多いので、自分に合った続けやすい方法で英語学習に取り組んでいきましょう。